

チュートリアル課題 夜間の呼吸困難

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032214

2013年度 Segment. 4

課題 No.5

課題名：夜間の呼吸困難

課題作成者：心臓血管外科学

齋藤 聡



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

平成25年6月2日 T大学病院外来

西島晃子さんは研修医である。外来にて患者さんの診察依頼があり、指導医と一緒に外来へ駆けつけた。患者さんは山田秀俊殿、68歳男性。最近、夜間息が苦しく、眠れない。時々胸が締めつけられる事もある。また、最近、靴がはきにくくなり、体重が増えてきたように思う。どこか悪いのか心配になって来院した。西島さんは何かチェックすべき項目がないかどうか思い巡らした。

シート2

指導医である福山先生と一緒に胸の診察をしようと考えた西島さんは胸の聴診を行った。前胸部に心雑音を聴取した。

シート3

福山先生は次のように説明した。

「山田さんの今回の症状は、心臓に多くの負荷がかかり、ポンプがうまく働かなくなった状態によるものです。そのため、全身のホルモンや神経調節がうまくいかなくなり、全身に水がたまっているのです。長年の間に、心臓の機能の代償がうまくいかなかったのです・・・。」

シート4

福山先生は来院時の胸部エックス線写真、心電図を見ながら、「心臓の動きを見ましょう。」と言い、心臓超音波検査で心臓の動きを山田さんに見せた。

山田さんは全体に心臓が大きく、左心室の壁が厚くなっていて、壁の動きが全体に悪いように思えた。

また福山先生は「大動脈弁が随分厚くなって、石灰化が見られますね。」と説明した。

西島さんは、大動脈弁はどうして厚くなって石灰化するのだろうと思った。

シート5

山田秀俊さんは、平成25年6月2日に“大動脈弁狭窄症による心不全”の診断で入院した。
入院加療の後、福山先生は「薬物療法も重要ですが、弁の手術が必要です。」と説明を行った。